

こんにちは! 医療センターです

Kitakyushu Municipal Medical Center



北九州市立医療センター
院外ニュース/発行日: 2018年9月10日

2018 SEPTEMBER

9

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>

北九州市立医療センターDMAT(災害派遣医療チーム) 「平成30年7月豪雨災害に対する活動について」

今年7月、西日本を中心とした広い地域で集中豪雨が発生。死者216人(7月18日現在)を記録する大災害となりました。7月6日(金)、北九州でも水害が発生しました。当院でも災害対策本部を立ち上げて対応しました。継続的に近隣河川や医療機関の状況を確認し、患者受入れ用のベッドを確保、地下の物品を上への階に移動したりしました。7月8日(日)広島県よりDMAT出動要請が出ました。病院長をはじめとした上層部に報告。管理課、薬剤課、臨床工学課、売店など複数の部署の協力のもと準備を整えて同日夕刻出動しました。また院内には、被災地で活動を行う隊員の代わりに情報収集やEMIS(広域災害救急医療情報システム)への入力、現地の宿の手配等をしてもらう後方支援チームをつくって活動しました。複数の職員が院内の通常業務からはずれるため、上層部に勤務調整等を依頼しました。翌日、県立広島病院のDMAT活動拠点本部で活動を開始しました。我々は被害の大きかった呉市のすぐ北にある矢野町の避難所に出動することになりました。綿密な打ち合わせと準備を終えて出発しましたが、結局矢野町には保健所が行くことになり、その出動は中止になりました。代わりに上瀬野の家屋倒壊現場で死亡確認をするよう指示を受けましたが、それも他のチームが行くことになり、一旦本部に帰投しました。夕方になって北広島町の状況を調べる指令を受けて再度出動しました。そこには傷病者が居ないことを確認してこの日の活動を終えました。翌日正午、DMATの需要は減ってきたとこのことで活動拠点本部は解散しました。我々も小倉に帰投することになりました。

今回の出動では残念ながら当DMATはあまり被災地のお役に立てなかったのかも知れません。しかし今回の災害では院内のたくさんの部署のご協力を受け、一丸となって災害対応を行うことができました。DMAT以外の院内の職員に災害対応を経験してもらったことは今後の当院の災害対策を進めていく上で大きな財産になったと思います。近年異常気象による豪雨災害は増え、また高い確率で南海トラフ大地震が起ると予想されています。地震大国といわれる日本では地震災害は避けて通ることができません。災害拠点病院である当院はそれらの災害に対して役目を果たすべく、引き続き災害対策を進めていきます。皆さん今後ともご協力よろしくお願いします。



県立広島病院DMAT活動拠点本部

平成30年7月豪雨 広島県出動クロノロ*

時刻	活動内容
7月8日	
13:45	DMAT出動要請(待機)
14:00	クロノロ記入開始
14:30	物品準備、公用車の手配等
14:35	目的地までの走行経路、道路状況確認
14:49	輸液準備、輸液セット、ガーゼ多めに準備
15:00	輸液ポンプ、シリンジポンプ用意
15:10	公用車の手配済、ブルーシート・雨具用意
17:18	DMAT出動要請あり 目的地: 広島県立病院 7月9日8時到着、7月10日までの活動予定
17:36	装備等、車へ搬入
18:55	DMAT出動
23:38	ホテル到着
7月9日	
1:09	DMAT隊員就寝
6:40	DMAT移動
7:23	イオン宇品駐車場到着
7:39	県立広島病院到着
7:45	本部到着 受付施行
8:08	現地でミーティング開始
8:45	班分け決定: 広島市内
8:50	道路状況確認
9:15	広島地域ミーティング開始
9:40	活動場所 矢野地区に決定 目的地: 矢野小学校
10:50	本部出発
11:30	活動内容変更: 黒判定
12:00	上記活動中止。目的地変更 一旦本部へ帰還
12:17	本部到着。(待機)
13:17	定時連絡: 隊員異常なし、本部にて待機中
14:09	県立広島病院での本部活動の補助と現場救急時の対応
14:40	本部にて、3隊合同ミーティング
14:43	北広島町役場での活動指示
15:20	北広島町役場へ出発
16:34	北広島町役場到着
17:03	北広島町役場出発
18:50	本部到着
18:57	三原市、尾道市、呉市断水にて、病院避難・夜間出動の可能性あり
19:03	広島県よりDMAT2次隊派遣要請の可能性ありとの連絡有り
19:50	ホテル到着
21:35	ロジスティックチームの派遣要請あり
21:43	DMAT追加派遣要請解除
7月10日	
7:00	ホテル出発
7:47	県立広島病院本部到着
8:00	現地で全体ミーティング開始 j speed!について
9:20	講義終了 12時まで待機
11:43	12時に本部解散予定
12:03	本部解散、昼食後帰隊
14:17	広島市内から出発
19:00	DMAT帰着



*クロノロ(chronology): 過去の出来事を時系列に並べたもの

補聴器外来を始めました

2018年5月より補聴器外来を始めました。

補聴器を購入したことがない患者さんはもちろん、補聴器をすでにご購入されている患者さんでもご相談していただけます。

難聴の訴えはさまざまで、日常会話そのものの困難を訴える方の他にも「テレビの音が煩い」と言われていることを悩まれた方、寄り合いや会議での聞き取りに困難を感じて来院される方もおられます。

難聴患者さんの多くは老年性難聴という内耳の加齢による変化が原因ですが、それ以外にも突発性難聴、メニエール病、慢性中耳炎、外傷などの疾患による難聴もあり原因はさまざまです。すべての患者さんに補聴器の適応があるわけではなく、中には手術による聴力改善が図れる方もおられます。

患者さんが耳鼻咽喉科外来を受診された際に専門医が補聴器適応の有無を判定し、効果があると診断された患者さんに補聴器外来を再診していただいております。

補聴器外来では2週間程度の補聴器の貸し出しを行い、日常生活での補聴器の装用効果を実際に感じていただけます。実際に装用してみても困りの会話がしやすくなったと実感できた方には購入をお勧めします。

補聴器使用者の大多数は老年性難聴などの感音性難聴の患者さんです。この難聴は単に小さい音が聞こえな

いだけではなく、大きい音は割れたようにうるさく感じたり、不自然に歪んだ音に聞こえることで言葉の聞き取りが悪く会話に困ることが起こります。

感音難聴の原因は内耳と呼ばれる「聴こえの神経」が年齢的变化によって減少したりさらに脳に刺激を伝える部分に加齢性変化が起こるためであり、これを完全に補う補聴器は存在しません。

近年はデジタル補聴器も進歩しており、周囲の雑音を抑える機能(ノイズリダクション)、自分の正面から来る声や音を選別して聴き取りやすくする機能(指向性マイク)等の機能が加わり格段に機能向上が図られています。当然値段も高くなる傾向にあります。

補聴器は「高ければ良い」わけではなく、「その方に合った補聴器」が「良い補聴器」であることを知っていただきたいと我々は考えています。

難聴の患者さんの中には耳鳴を主訴に来院される方もいらっしゃいます。難聴に伴う耳鳴に対する治療として補聴器装用があります。ぜひご相談ください。

補聴器外来：第一・第三水曜日午後



耳鼻咽喉科医師(左から：真子医師、田中医師、古後医師、高岩医師)



補聴器をつけた時の様子



北九州市立医療センター

院外ニュース / 発行日：2018年9月10日

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>

発行人：北九州市立医療センター 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-1 TEL093-541-1831 FAX093-533-8693



HP：QRコード



FB：QRコード